

伊賀市社協だより

令和8年10月1日発行

No.247

10月号



太陽作業所 生活介護事業所ひらそる



プレイヤー作業所

今年の夏も



グループホームあやま



デイサービスセンター彩四季

思い出いっぱい!

令和8年度 夏休み
ふくし体験教室 開催



認知症対応型グループホーム
伊賀シルバーケア豊壽園



小規模多機能型居宅介護 しらふじの里



小中学生および一般の方 41 人（延べ参加 60 人）のみなさんが、市内 17 箇所の福祉施設で、レクリエーション活動やふれあい交流をしました。体験の一コマをご紹介します。

みどり保育園

9:00 子どもと遊ぶ
11:30 給食準備手伝い
12:00 昼食
13:00 午睡準備手伝い
14:30 おやつ準備
15:00 おやつ見守り
15:30 帰りの用意の手伝い、掃除
16:00 終了



保育の仕事に関心のある中学生 4 名の方が体験に来てくれました。みなさん、はじめのうちは硬い表情でしたが、子どもたちと一緒に遊ぶうちに笑顔になっていきました。「おにいさん、あそぼう」「おねえさん、こっちに来て」という子どもたちの誘いかけに笑顔で応じてくれました。また、夏ならではの遊びも一緒に楽しんでくれました。保育士を目指している金子輝時^{かねこ てるとき}さんは「緊張していたけれど、子どもが寄ってきてくれて、温かい気持ちになりました。」と話してくれました。



夏休み ふくし 体験教室

体験レポート

■主催／伊賀市社会福祉協議会
■共催／伊賀市社会福祉法人連絡会



グループホームあやま

9:00 オリエンテーション
10:00 体操・ご利用者と挨拶
11:00 コミュニケーション
12:00 お昼休憩
13:30 工作準備
14:00 レクリエーション
15:00 おやつ準備
15:30 ふり返り 質疑応答



今回は、小学生のご兄妹と、おばあさまの 3 人で体験に来ていただきました。身近な地域にある高齢者福祉施設で、入居されている方々がどのように過ごされているのか、実際の体験を通して知っていただく機会となりました。

年齢を重ねても、認知症があっても、一緒にゲームや体操を楽しむこと。そして、相手のことを知り、理解し、寄り添うことの大切さ。今回の体験で感じたことを、これから同じ地域社会の中で高齢の方と接するときに、ふと思い出していただけたら、とっても嬉しく思います。



特別養護老人ホーム ゆめが丘鶴寿園

9:00 オリエンテーション
9:30 血圧・体温測定・体調確認
10:00 入浴・脳トレプリント
12:30 昼食
14:00 リハビリ体操・機能訓練・レクリエーション
15:45 おやつ
16:00 終了



初めて体験教室に参加された石田葵彩さんは、
初日は緊張した様子でした。時間の経過とともに笑顔も見え、
すぐに馴染んで利用者様のお手伝いをされていました。利用者
様からは『孫やひ孫のような世代と触れ合えて、たくさんの笑
顔が見られた』との声があり、職員にとっても嬉しい時間とな
りました。石田さんからは、「いろんな人との交流ができた。
利用者様やスタッフの人がやさしくしてくれて、来てよかった。」と感想をお寄せくださいました。

申込のきっかけ

- ・お年寄りがどんなふうに住んでいるのか、何が大変なのか知りたい
- ・去年も参加して、利用者さんとの関わりが楽しかった
- ・大好きな祖父母が高齢で身体が弱ってきているので、お手伝いの仕方とかを学んでみたい
- ・子どもが好きで、誰かのために何かしたかった
- ・福祉の仕事を通して自己発見につなげたい

上野ひまわり作業所

9:30 オリエンテーション
10:00 朝礼 体操
10:10 ウォーキング
11:20 作業活動体験
12:00 昼食
13:10 作業活動体験
レクリエーション（音楽療法等）
15:00 終礼



「夏休み」、子どもたちのかけがえのない時間。一般の方にもご参加いただきました。初めての場所や経験に、初日は緊張されていましたが、朝の日課の「ウォーキング」では、利用者様と一緒に景色を眺めながら約 3km を歩き、表情も次第に和らぎました。その後の作業活動や交流では、自然に触れ合う様子が見られました。障がいのあるなしに関わらず、「その人らしい暮らし方」を体験していただけたことを、とても嬉しく思います。



みなさんの感想より

- ・1人ひとり楽しそうで、積極的に話かけてくれたりして、とても良い印象になりました
- ・お年寄りのために様々な工夫があって驚いた
- ・自分もできない時手伝ってもらったうれしいので、おじいちゃんやおばあちゃんにやさしくしようと思いました
- ・とても楽しかった

来年度も、たくさんの方のご参加をお待ちしています！

"m3" B



住まいの不安は、 誰にでも起こり得る身近な課題です

「年齢を理由に入居を断られた」

「障がいがあって受け入れてもらえない」—

こうした“住まいに関する困りごと”は、特別な人だけではなく、
誰にでも起こり得ることです。

連帯保証人が
みつからない

足腰が弱って
階段の上り下りが
つらくなってきた



家賃の支払いが
厳しくなってきたので
引っ越したい

失業して
今の住まいから
出なくてはならない

住まい探しでは、借りる側・貸す側 双方にさまざまな課題があります

「借りたい人」の課題

保証人がいない
緊急連絡先がない
家賃が予算に合わないなど



「大家さん」の課題

家賃滞納の不安
残置物処理の負担
孤独死などのリスクへの心配

住まい相談の対象となる方（住宅確保要配慮者）

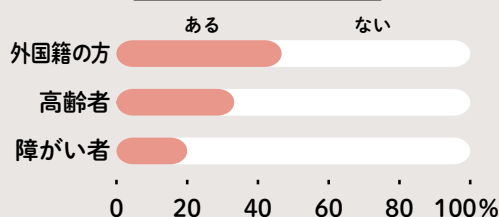
- | | | |
|--------------------------------|---|--------------------------------|
| ☐ 低所得者 | ☐ 障がい者（身体・知的・精神） | ☐ 外国籍の方 |
| ☐ 生活困窮者 | ☐ 子育て世帯 | など |
| ☐ 高齢者 | ☐ ひとり親家庭 | |

言葉・生活・トラブル不安などが壁に 一家主が入居を拒む理由とは—

伊賀市で行われた家主の意識調査では、入居の拒否について、
外国籍の方には 46.7%、高齢者には 33.3%、障がい者には
20.0%、拒否感があるという結果がありました。

家主が入居を拒否する理由については、「言葉が通じないと思
うから」「生活・考え方に相違があるから」などがあげられました。

賃貸住宅の入居拒否



(2025.3 伊賀市
「宅地建物取引に関する人権問題の実態調査」)



住まいのこと ご相談ください

住まいは、単なる「居場所」ではなく、生活再建や福祉、就労、教育、健康の基盤となるものです。

伊賀市社協は、三重県より居住支援法人の指定を受け、**高齢者や障がい者、ひとり親世帯、外国籍の方、生活に困窮されている方などで住まい探しでお困りの方**の相談に応じ、**民間賃貸住宅への入居**をお手伝いしています。



相談・情報提供

- **住まい探しのアドバイス**

さまざまな事情を抱える方々が、それぞれのニーズに合った賃貸住宅を見つけられるよう相談に応じます。

- **物件情報の提供**

自治体や不動産会社と連携し、住宅確保要配慮者の入居を拒まない物件の情報を提供します。

- **契約手続きの支援**

賃貸契約の書類作成や入居に必要な手続きについて助言やサポートを行います。



その他

単に物件を紹介するだけでなく、住まい探しの初期段階から入居後の生活までご相談に応じます

住まいは、家族が暮らしを営み、子どもを育て、人とつながり、安心して生活していくための大切な場所です。私たちは、みなさんの悩みごとの解決に向けて、一緒に考えていきます。



くらし支援課
住まい相談支援員
山田 里奈子



生活支援

- **見守り**

入居後も、関係機関と連携し、必要に応じて定期的な訪問や電話などで安否確認を行う、「見守り」サポートを行います。

- **他機関との連携**

相談内容によっては、福祉サービスや医療機関など、他の専門機関につなぐ役割も担います。



住まいに関するご相談は・・・

伊賀市社協 くらしサポートセンターおあいこ

📍 伊賀市平野山之下 380-5 伊賀市総合福祉会館 1 階

☎ 0595-22-0084 (平日 8:30~17:15)

✉ oaico@hanzou.or.jp

広告

三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会からのお知らせ

令和7年度
伊賀市共同募金委員会
実績額

9,896,295 円

みなさまのご協力
ありがとうございます

個人募金 562,615 円
街頭募金 704,009 円

職域募金 947,506 円

法入募金 1,057,872 円

総合計
9,896,295 円

戸別募金 6,315,132 円

イベント募金 150,811 円

学校募金 118,766 円

その他 39,584 円
(バッジ、UMOU など)



令和8年度 共同募金配分金助成事業予算【三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会配分】

生活困窮・子どもの貧困対策事業

緊急かつ一時的に困窮状況となった低所得の方に、食料等の現物を提供して自立生活を支援します。また、お米パントリーなどを通じた子育て世帯等への食料支援を行います。



貸出備品等購入事業

介護用品のほか、地域の交流事業やイベント等で使う備品を購入・修理します。



災害見舞金・災害救援支援金給付事業

天災人災を問わない局地的災害により全焼・全壊または半焼・半壊の被災者への見舞金や、地域住民による炊き出し等の支援活動への支援金を給付します。



広報啓発事業

社協広報誌の発行や福祉映画会による地域福祉の啓発を行います。

地域福祉団体活動助成事業

地域福祉に取り組む当事者組織、ボランティア市民活動団体、地域団体等に対し、資機材購入や研修・調査活動等への助成を行います。



伊賀市手をつなぐ育成会（療育キャンプ）



つばめサロン（子育てサロン）



三重県共同募金会広域配分

(県下の社会福祉施設・団体、災害時の活動支援などに配分)

1,971,912 円
(19.9%)

全市統一事業
1,000,000 円
(10.1%)

地域福祉団体
活動助成事業
1,624,383 円
(16.4%)

9,896,295 円

ふれあい・いきいきサロン
支援事業
5,300,000 円
(53.6%)

ふれあい・いきいきサロン支援事業

市内約240箇所で開催されている、身近な地域で、高齢者や障がい者、子育て中の親、ボランティア等が協働で企画運営をし、孤立予防や介護予防を目指す仲間作りの場を支援します。

ひとりひとりのやさしい気持ちが、まちの福祉を支えています。



富山県氷見市では、記録的な大雨により500件を超える床上・床下浸水による大きな被害が発生しています。「氷見市災害ボランティア・支えあいセンター」には、100件を超えるボランティア依頼が寄せられ、生活再建に向けた支援が続いています。

伊賀市社協は、氷見市社協との「災害時における相互支援協定」に基づき、8月30日から職員を交代で派遣。能登半島地震に続き、センターの運営を支援しています。

現地では、被災された方の生活上の困りごとを丁寧に聞き取り、必要な支援につながるよう努めています。伊賀市社協の職員も、事前訪問調査への同行やホームページの改修など、現場の運営を支えています。災害支援の経験を活かし、被災された方が一日でも早く日常の暮らしを取り戻せるよう、現地社協とともに支援を続けています。

令和8年8月大雨被災地へー
氷見の復旧生活再建を支える

伊賀調停協会
「無料調停手続相談会」



離婚・相続などの家族・親族間トラブル、金銭・交通事故・土地境界・その他紛争について、調停で解決する方法や手続に関する相談会を行います。裁判所の民事・家事調停委員が、調停手続の仕組みや流れを説明します。(当相談会で、直接紛争解決を図るものではありません)

？ こんな悩みありませんか？

- ・離婚など夫婦間の問題
- ・遺産相続などの家庭内のもめごと
- ・多重債務や金銭トラブル
- ・土地の境界や騒音などの近隣トラブル
- ・交通事故

？ 調停手続きってどんなもの？

裁判とは違う、話し合いによる解決方法で、調停委員が中立の立場でサポートします。

【日時】 10月30日(金) 10時～15時

※無料・予約不要(直接会場にお越しください)

【場所】 伊賀市総合福祉会館2階

【主催】 (公財) 日本調停協会連合会・伊賀調停協会

【後援】 最高裁判所・伊賀市・名張市

【問合せ】 伊賀調停協会実行事務局

☎ 21-0592

潜在保育士等就労・
職場復帰支援研修(web)

保育士または放課後児童支援員の資格をお持ちで、現在保育現場で働いていない、働きたいと考えている方を対象に、講座を開催します。

各2時間程度の研修で、受講したい講座にお申込みいただけます。配信期間内は何度でも視聴可。研修受講者のうち希望者には、保育現場で職場体験に参加いただけます。

【配信期間】

令和8年9月1日(火)～

令和9年2月28日(日)

【申込期日】 令和9年2月15日(月) 16時

【対象者】 保育士または放課後児童支援員の資格を持ち、現在保育現場で働いておらず復職をお考えの方

【講座】

①保育現場で役立つ運動と遊び

②保育士におけるコミュニケーション

③子どもの成長を促した保育記録のポイント

④これからの保育に求められること

⑤配慮が必要な子どもと保護者を支える

【申込方法】

申込フォームから申込▼

【問合せ先】

三重県社会福祉協議会／三重県保育士・保育所支援センター

☎ 059-1227-15160



毎月の寄付者募集

1日33円からできるサポート



伊賀市社会福祉協議会

私たちは、地域社会を良くするために、制度の狭間となる課題解決に挑戦し続ける団体です。ぜひ、ご寄付という形で私たちの活動を支えてください。

【申込・お問い合わせ先】 伊賀市社会福祉協議会
☎ 21-5866・FAX 26-0002



生活の危機、人生の危機にある人や子どもたちを一人でも多く救うために、
あなたも「毎月の寄付者」になりませんか。

数字で見る伊賀市の福祉 令和8年7月末現在(前月比)

伊賀市の人口	▶ 82,452人(−110人)
伊賀市の世帯数	▶ 40,546世帯(−11世帯)
65歳以上高齢者数	▶ 28,502人(−9人)
高齢化率	▶ 34.6%(+0.1%)
75歳以上高齢者数	▶ 17,051人(+46人)
後期高齢化率	▶ 20.7%(+0.1%)
介護保険認定者数	▶ 6,144人(+8人)

「自分に合う仕事
がわからない」
「仕事の探し方
がわからない」など
不安がある方

あなたに寄り添いサポートします。ご家族もお気軽にご相談ください。
15〜49歳までの「仕事に就きたいと思っている人とその家族」を応援！

サポステ

ハイトピア伊賀3階 ☎ 0595-22-0039

メール iga-saposute@npo-en.or.jp

開所日/月・金 9:00~17:00(土・日・祝・年末年始休)

※就職相談・各種講座※

毎月開催 無料・要予約

仕事に
いかせる! パソコン講座
10/21(木)〜全3回
10:00~15:15

考え方を変えてみよう!
「ストレスマネジメント講座」

あなたのまちの
ふれあい・いきいきサロン

No.232



太陽会 メンバー数/ 30 人
開催場所/希望ヶ丘生きがいセンター
開催日/第1火曜日 13:30~15:00

「太陽会」は、令和8年に「共助・助け合いの繋がりを守りたい」という想いから発足したサロンです。今後は介護・転倒予防教室や音楽療法、世代間交流、健康講座など、様々な行事の実施を予定しています。区内の広報でサロンの開催をお知らせしており、多くの住民が参加しています。特徴は、レクリエーションの後に出入り自由のコミュニティカフェを開設していることです。参加者はお茶やコーヒーを飲みながら、お互いの近況を話したり、体調を労わったりしておしゃべりを楽しみ、住民同士の交流の場となっています。

代表の橋爪さんは、一昨年から開催している希望ヶ丘区の世代間交流イベントの主催者の一人でもあり、「住民同士の繋がりは、日常生活だけでなく災害などの有事にも活きてきます。助け合える地域を目指し、11月には体を動かすイベントも企画していますので、ぜひお気軽にお越しください」と話しています。

我ら!ふくし
レンジャー

No.231



かわぐちももみ

川口桃美さん(23歳 大阪在住)

●活動を始めたきっかけ

以前アルバイトをしていたカフェのオーナーから、子ども食堂「わいわいがっこ」のイベントのお手伝いの声をかけてもらったことがきっかけです。そこでスタッフの方と知り合い、活動について話を聞く中で「参加してみたい」と思い、継続して関わるようになりました。

●活動内容

受付や配膳、遊びスペースづくりや飾り付け、メニュー紹介の黒板イラストも担当しました。子ども一人ひとりに合わせた声かけや、会場全体を見ながら動くことも意識するようになりました。クリスマス会では、ハンドベルや紙芝居、手話を交えた歌などの企画を通して、それぞれの得意・不得意に関わらず、一緒に楽しめることの大切さを感じました。

●今後の抱負

子ども食堂は、家族や地域と繋がり、安心して過ごせる大切な居場所だと気づきました。今は仕事で地元での継続的なボランティア活動は難しいですが、将来は得意分野で地域や福祉活動に関わりたいです。ボランティア活動は、興味や誰かと関わりたいという気持ちから。若い世代の方も、まずは気軽に地域の活動に参加してみたいです。

編集・発行

伊賀市社会福祉協議会

本部

〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館1階

☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002

上野

〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館1階

☎0595(21)1112 / FAX0595(21)8123

いがまち

〒519-1413 愛田513番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」

☎0595(45)1012 / FAX0595(45)1050

島ヶ原

〒519-1711 島ヶ原4743番地 島ヶ原福祉センター「清流」

☎0595(59)3132 / FAX0595(59)3145

阿山

〒518-1313 馬場1128番地の1 阿山保健福祉センター

☎0595(43)1854 / FAX0595(43)1577

大山田

〒518-1422 平田656番地の1 大山田福祉センター

☎0595(47)0780 / FAX0595(46)1165

青山

〒518-0226 阿保1988の1番地 青山福祉センター

☎0595(52)2999 / FAX0595(52)3555

編集後記

富山県氷見市では、今回の大雨により、能登半島地震の被害が比較的少なかった地域でも、土砂崩れなどの被害に遭ったと伺いました。地域の地形や災害の種類によって必要な対策や生活支援を通じて改めて平時からの備えの大切さを感じました。